

# 山毛櫨(ぶな)の子 野沢温泉学園だより第9号

## 小中合同 PTA 講演会

### コロナ禍で、今私たちがやること

11月、小学校は「なかよし月間」として、中学校は「人権同和教育月間」として、自分と他者の尊厳を大切に、差別をなくしていく実践力の向上を目指して学習活動をおこないました。

子どもたちの成長に合わせた目標を設定し、だれとでも仲良く楽しく過ごせるように、多様性を認め合い互いに尊重し合えるように、部落差別に負けないたくましさや、差別を許さず立ちあがる強さについて等、学び考え合いました。さらに今年はコロナ禍での誹謗中傷や差別についてもとりあげました。



講師：徳永吉彦先生

またこの期間中に、小中合同 PTA 講演会が中学校体育館を会場にして開かれました。徳永吉彦先生（北信教育事務所生涯学習課 指導主事）を講師にお迎えし、SNS 等ネット社会の中で今起きている人権問題をはじめ、今まさに社会問題になっているコロナ禍での誹謗中傷・偏見・差別についてどう向き合い、対処していけばよいのか、ご講演をいただきました。

コロナ禍で、今まさに北信圏域は感染警戒レベルが4になり、誹謗中傷、偏見、差別は他人事ではありません。人はなぜ差別をしてしまうのか、感染症が差別を生み出すメカニズムを分かり易く解説しながら、偏見・差別を減らすために、私たちにできることは何か教えてくださいました。

#### 【徳永先生のお話し ～新型コロナ感染症に関わる箇所を抜粋～】

コロナウイルス感染症の怖さだけでなく、罹患した人が、責められ、罪悪感にさいなまれている事実、そして間違った情報から、社会から不当な扱いをされたといったニュースが飛び交っている現状があります。

なぜ差別や偏見をしてしまうのか？「自分も感染してしまうかもしれない」「自分や家族が感染したら、いじめられるかもしれない」そういった漠然とした不安が、「咳をしているからコロナかも」「県外ナンバーの車は排除しよう」など、自分自身の不安やおそれを取り除くために、目に見えるものや人を敵とみなして排除することで、自分を安心させようとする。このことは、まさに差別や偏見です。立ち向かうべきは、ウイルスであって、人や物を攻撃しても何も解決はしません。正しい知識や認識がないことによる不安が、差別や偏見を生み出しています。そこで、差別や偏見を止める



講演を聴講する小・中保護者のみなさん

ためにすべきことは、○信頼できる機関が提供する情報を得る。○悪い情報ばかりに目を向けない。

○根拠のない話、うわさ話、差別的な言動に異議を唱え、同調しないこと。

感染拡大の心配が続く中、社会的距離はとる必要がありますが、「心の距離」まで開けてしまってよいのでしょうか。人と人との「心の絆」が必要ではないのでしょうか。

今私たちのやることは、感染した個人や職場、学校を特定して避難し責めるのではなく、誰もが感染する可能性があるということを理解して「疑いや悪口を言う」など、身の回りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげて誹謗・中傷を止めることです。優しさがウイルスとの闘いの大きな武器になります。

### 【参加された皆様の感想から】

- ・人権について、子どもたちはもちろんですが、私たち大人（保護者）が、学んでいく必要があると思いました。ネット、コロナ等不安な日々ですが、常に考えて日々の行動をしたいと思います。
- ・子どもと共に考え、自分の中の恐怖ではなく、理性が勝つように、常に一歩踏みとどまって考えて行動していきたいと思います。
- ・コロナ禍で自分を守る為に、誰かを傷つけることがあることに気が付きました。
- ・コロナを取り巻く現状で具体的に自分のことに置き換えて考えることができました。自分の言動がどうなのか、必ず振り返りたいです。今必要な考え方を教えていただきました。

## 小中合同集会～人権標語をつくろう～

野沢温泉学園として、生徒会と児童会が相談して、小学生と中学生が一緒になり人権標語を作る企画を計画してくれました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一緒になって人権標語を作ることは叶いませんでしたが、それぞれが作った人権標語を、それぞれの校舎に掲示して、小学生、中学生が書いた人権標語をお互いに見せ合う取り組みが行われています。

人と人との直接の交流はできませんが、こうした取り組みを通して、お互いを思い合う時間を大切にしています。



中学校に掲示されている小学生の人権標語



小学校に掲示されている中学生の人権標語